

# 中庭の生き物から学ぶ

笠松小学校の四年生と言えば飼育活動。特にうさぎの世話は毎年、児童にとって大変楽しみな活動となっています。

昨年度四年生の度會由貴さんは、これから世話をするうさぎと出会った感動を次のように日記に表していました。

## 四月十日の日記より

今日、うさぎを抱きました。はじめはうさぎを抱けるかなと心配でした。うさぎを抱くとき、お腹の下に手を入れるのがドキドキしました。抱いたとき、毛

がふわふわだな、うさぎの体は温かいな、といろいろなことを思いました。抱けたときは気持ちよく、とてもうれしかったです。これから一年間、生きものの世話、掃除など、生きものが暮らしやすいよう活動していきたいです。

うさぎを初めて抱いた由貴さん。ふわふわな毛、温かい体とあった、生きている証を感じ取っています。そしてうさぎが暮らしやすいよう、掃除を頑張りたいと決意しています。

三十匹以上のうさぎがいる中庭の掃除は、思うほど楽なものではありません。しかし一年後には、そんな苦勞を喜びとする由貴さんがいました。

## 三月十一日の日記より

今日の小屋の中のわら代えは大変だったけれど、うれしかったです。

最初はわらがこんなに少なくなっているとは思っていませんでした。ほうきでふんやわら、砂などを全部取りました。この作業はとても大変で、掃いても掃いてもまだふんがありました。でもうさぎのために住み心地をよくしたいと思いながら一生けん命やりました。やっとふん取りが終わり、うさぎが温かくなるようわらしきをしました。わらをしているとき、一匹のうさぎが小屋に入ってきて、うれしそうにわらを食べました。それを見て、とてもいい気持ちでした。

生き物の命の尊さを知り、気持ちよく掃除を行う姿は、笠松小学校の伝統となっています。

笠松小学校

道徳主任 福井 敏彦



教育委員会  
だより

## 学力低下問題を考える

学校完全週5日制がスタートして早2年が過ぎました。スタートした時には、子どもの学力が低下してしまつとか

家庭で子どもたちがどう過ごしているのか分らないという心配が囁かれましたが、果たしてどうだったでしょうか。

周りの大人たちが心配するほど子どもたちは不自由を感じていないわけではありません。多くの子どもたちは自分の時間を有効に使い、趣味にいそしんだり、読書をしたり、自主勉強、スポーツをして楽しんでいます。公民館等で開催されるイベントに参加する子どももいます。家族で出かける子どももいます。それぞれがそれぞれの環境の中で充実した2日間を過ごしています。

大切なことは、このように自由になった時間を、一人ひとりの子どもたちがどのように過ごす力をつけることです。

自分が何をやりたいのか、そのために何が必要かを考え行動していく(時には思ったようにはいかない場合もあります)が、ことでその子の「生きる力」が育っていきます。その

大切な要素が「わかる授業」であり「確かな学力」です。今、学校ではさまざまな授業の工夫をしています。

その一つは、少人数・T・T等によるきめ細かな学習指導です。どの子にも理解させたい、出来るようにさせたい基礎・基本的な内容を徹底して教えています。算数・数学はどの学校でもこの形式で授業を行っています。個別指導が必要な子にも時間をかけて教えることで学習内容が理解できています。

二つめは、その子の到達度を明確にした絶対評価による通知表です。保護者としては、うちの子が今何がどの程度分かっているのかを知りたいものです。毎時間の到達度の積み上げによって記された評定所見は以前と比べて分かりやすくなっているものと思えます。

確かな学力とは単に知識の量を量るものではありません。大人になって独り立ちしたときに、その培った知識を社会で生かし「たくましく生き抜いていくための確かな学力」が真の学力です。

確かな学力とは単に知識の量を量るものではありません。大人になって独り立ちしたときに、その培った知識を社会で生かし「たくましく生き抜いていくための確かな学力」が真の学力です。